

日本航空安全啓発センター研修について

(一社)日本航空宇宙工業会は、日本航空株式会社(以下:JAL)からのご厚意のもと日本航空安全啓発センターにて当会役職員を2グループ2日間に分け研修を実施した。

研修は、1985年8月12日、JAL123便JA8119号の御巣鷹山事故について、JAL安全推進部の社員様より当該事故の直接原因とされる後部圧力隔壁、後部胴体他の残存機体、ご遺品、乗客/客室乗務員の方々が残されたご遺品/メモ、現場写真および事後の新聞報道の展示品、フライト・レコダーから事故状況下での機体姿勢と機長/管制官との通話を視覚化したVTRを交えて丁寧にご説明頂いた。

当該事故の悲惨さ、ご遺族の苦しみ悲しみ、最善の対応をされた操縦者/客室乗務員の記録を目の当たりにし、航空安全確保において、部品数100万点、超多品種・少量生産と超ワイドレンジに跨る航空機製造/修理での品質管理の重要性について再認識すると共に身の引き締まる思いであった。

日本航空安全啓発センターは、JALグループ社員の研修施設になっているが、JAL社員研修と重ならない範囲で、航空安全に資するため他社の方々にも公開されている。機会あれば是非ご見学いただければと思う。

最後に、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りすると共にこのような機会を与えて頂いた日本航空株式会社殿に感謝する。

1. 日 時：2024年1月30日(水)、2月2日(金)
同日13:00~14:30
2. 場 所：日本航空安全啓発センター
〒144-0041
東京都大田区羽田空港3-5-1
メンテナンスセンター6階
3. 研修者：藤野専務、役・職員 計22名



出典：日本航空(株)ホームページ

※ご見学希望は、安全啓発センターのサイトから申込可

(<https://www.jal.com/ja/safety/center/>)

[(一社)日本航空宇宙工業会 総務部部長 大田 浩平]